

# 「平成30年度 第3回大月みらい協議会」 会 議 概 要

日 時 平成30年10月29日（月）午後7時から午後9時まで  
場 所 大月短期大学 会議室  
出席者 委員12名（9名欠席）  
長田弘、小俣理美、三富聖久、佐々木啓吉、佐藤茂幸、志村淳、庄司有紀、  
白川太、中島啓介、仁科美芳、三木範之、渡辺勝  
【事務局】 兼子総務部長、金畑地域活性化担当リーダー、堀内

## 1. 志村議長あいさつ

こんばんは。前回の会議は7月20日に開催しました。今日までの間に、3ヶ月以上経過しましたが、この3ヶ月は非常に貴重な期間となりました。皆さんには、ご自身のお仕事の合間を縫いながら、おそらく大変なご苦勞を頂いたとっております。それについては、深く感謝を申し上げます。それだけに、本日はこの3ヶ月間の中身について、皆さんと共有したいと思います。簡単でございますが挨拶とさせていただきます。よろしくお願い致します。

## 2. 議 題

### (1) 平成30年度第2回会議概要について

●平成30年度第2回会議概要の市ホームページへの公開について承認されました。

### (2) 大月みらい協議会チャレンジ事業の結果発表又は途中経過報告について

#### 【志村議長】

次に、議題の2に移ります。ここからは佐藤副議長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

#### 【佐藤副議長】

皆さんこんばんは。今日も遅い時間にお集まり頂きありがとうございます。そして、久しぶりの全体会議となりましたが、この間、各グループでは、それぞれが一生懸命活動して頂いたということで、今日は中間報告と、まとめをどうしていくのかということを検討の場にしていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

この後の議題2の予定ですが、まずは各グループのリーダーから、チャレンジ事業の途中経過ないしは、もう結論が出ているグループもあるようなので、結果についてご報告を

頂こうかと思っており、その後全体での意見交換を行います。次に、今後のみらい協議会の全体の進め方について私の方から提案をしたいと思っており、それについて、いろいろと検討をして頂きたいと思います。その上で、最後に、一応計画としては11月までがチャレンジ事業の計画なので、まとめの11月の報告会をどうするのかということをご各グループに分かれて、話し合いをするという3つの段階で、この後進めていきたいと思っております。

それでは早速グループリーダーから、ここまでの状況をみらい協議会全体で共有したいと思っておりますので、報告をお願いします。

最初にBグループから報告をお願い致します。

#### < Bグループ発表 >

##### 【佐々木委員】

Bグループということで、本来はA、B、C、Dと発表があるはずですが、Bグループから発表致します。ただ、Bグループと言っても、今は私一人しかいません。それにはそれなりのちょっと理由がございます。

私どものグループは、子ども達の夢を育む教育事業という形で、『夢塾』という提案をさせて頂いたことは既に皆さんご存知のことと思っております。この件につきましては、もともとは小学校で行っている「2分の1成人式」のことを教育長からお聞きしました。本来の私共が考えている着地点は一つの提案書を作るというところまでだったのですが、もう少し進めてみようということで、「2分の1成人式」と「夢塾」の連動を図ろうということで、いろいろと企画をし、皆さんにお見せした企画書を基に、教育委員会に諮って頂きました。

教育委員会の方では、結果として「ノー」なんだという言葉が返ってきました。それはどうしてかということ、子どもに対しては原則全員ということが望ましく、かつ、教師の多忙さということと、財政的見地から実施は難しいというご回答を頂きました。

私はそれを聞いて、その回答のままでいいのかなと思いました。実を言うと、先週、小泉教育長とお会いしました。その前に、私含めてグループ5名については、このままストップ状態になるのであればということで、4名の委員の皆さんには既にご希望の他のグループに移って頂きました。それゆえ、私一人で説明をしているという状況です。

先週、教育長と教育次長にお会いしました。その際には、みらい協議会の議長と私と事務局立会いの下、お話を伺いました。教育長と話したからと言って計画が進むかと言えばそうではなくて、結果は変わらないのですが、大月市の教育の現状についてお話を頂きました。いくつかのコメントを整理しますと、他のグループにも影響がある内容であろうと思われましたので、それをコメントとして発表させて頂いて、これからのそれぞれの活動に生かして頂ければと思います。

まず、10歳の小学校4年生の時に行う2分の1成人式については、子どもが夢を言って、この夢を保護者と共有する機会であると学校側では捉えております。ただし、10歳という年齢は、夢に対して子ども達に成長の発達度合がそれぞれ違います。ある子どもは

仕事について、「こういう人になりたい」と言いますが、別のある子どもは、「世界一周をしてみたい」というような具合で、その部分の格差がだいぶあるということでした。従って、夢塾の企画・原案通りには中々取り組んでいくことは難しいというようにお話を頂きました。

それから、夢塾の子どもの夢を膨らませるということは素晴らしいことですが、2分の1成人式の中で、例えば、「夢追い人」と教育長は表現しましたが、「夢追い人」が、学校に来て子どもとふれあって頂くことが出来れば、一番いいのではないかと、夢塾の延長線上に考えておられたようです。

また、子どもの夢に向き合うのは保護者であるという話もありました。少なくともこういうことについて、夢の共有者は保護者、親であるということで、ふるさと教育のターゲットは保護者にあるということを書いておられました。それは、地域の人材が保護者にメッセージを送ってもらいたい、つまり保護者を教育してもらいたいというコメントでございました。

もう一つの問題点は、現在、発達障害の子どもが増えてきているということです。実際の教育現場、大月市では、先生をサポートする講師が20数名配置して、落ち着かない子ども等に、個別にその中で指導しているということが現状としてありました。それが教室の中で、授業を進める上で、一つの障害になっているという話も頂きました。

今回の提案で共有出来たことについては、「子どもが夢を持つことはとても大事なことなんだということです。夢塾をどのような形にしていくかについては、一緒に考えさせて頂きたいという想いでございます」ということでした。コメントの趣旨は、今言った5つくらいでした。

残念ながら、「2分の1成人式」と「夢塾」の連動が出来なかったことについては、やはり、あまりにも大月市の教育現場を熟知していないままの提案であったことが、大いに反省しなければいけないし、全くふがない結果となってしまったことに深く反省すると同時に、各位の努力に対して申し訳なく存じております。お詫びを申し上げます。

また、今後においては、提案や立案をする場合、それぞれの現場スタッフ、今回の場合は教育関係者であります。その方々と一緒に席に着き、協議し、立案することが実りある提案になるのではないかと思います。このような部分が一番欠けていたなと思っております。

一旦は提案したということで、一つの実績とさせて頂き、先程申しあげました通り、Bグループの方々には、それぞれ希望する他のグループの方に、今後の活動の場として移って頂いた次第です。以上でございます。いろいろと力及ばず申し訳ないと思っております。ありがとうございました。

## < Aグループ >

### 【白川委員】

Aグループの途中経過の報告を致します。まず、私達のチャレンジ事業の目的とゴールを確認したいと思います。 「中学校で実施している職場体験を通じて、子どもに、仕事を通じたカッコいい大人の姿を見せ、夢や希望を持つきっかけづくりを行う。同時に、子どもと向き合うことにより、受け入れ側となる企業の社会的役割及び従業員の仕事に対する意識の向上を図り、大人自身が夢や希望を持つことの大切さを再認識させる。」ということです。

ここまでの3ヶ月の間で出来たことですが、まず、職場体験ということですが、大月東中学校2年生を対象に致します。日にちは11月7日と8日の2日間です。職場体験は、Aグループのメンバーの皆様を中心に協力して頂きまして、事業所として10社に賛同して頂くこととなりました。10社の事業所に、Aグループの取り組みに賛同して頂くこととなりました。受け入れる生徒ですが、10社の内、合計17名の生徒さんが参加して頂けることになりました。

ここまでやってきたことのまず1つ目として、「みらい夢カード」を作成しました。1社に1枚ずつ作成して頂きました。この「みらい夢カード」を学校の廊下に張り出して頂きました。とにかく、自分達の会社でやっていることを、子ども達に分かり易くするために、先生方からもヒントを頂いて、いろいろな会社が工夫して作って頂きました。まず、これを作ることで、事業所の中でも、従業員の方の勉強になりました。「子ども達にどうやって自分達を紹介しようか？」ということ、いろいろと工夫されたと聞き、私も非常に興味したところであります。これを廊下に張り出したということが1つ目の事業です。

2つ目の事業としましては、賛同して頂いた10社の内、6社の方が10月26日に大月東中学校で、「職業講話」を行いました。そこで、自分達の会社や事業、それから業界のことや、こんなことをやっていますという話をしました。

これから、本番が11月7日と8日にありますが、その後、今後計画していることで、学校で職場体験終了後に発表会を3月18日に行うこととなっています。そちらの方は我々の事業からすると、期間が終わっておりますので、参加はしても成果的に反映することは少し厳しいので参加は見送ることとしました。そうは言っても参加は自由参加です。親御さんも参加していいということなので、皆さんもご興味があれば、是非参加して頂ければと思います。こんなところが今後の予定でございます。

### 【事務局 堀内】

資料にはないのですが、大月東中学校の職場体験担当の先生からコメントを頂いておりますので発表したいと思います。

10月26日の職業講話で大月東中学校に伺ったときに、みらい夢カードの掲示が行われておりました。こちらの方の先生の談話としましては、このカードを貼った瞬間から生徒が群がって、見るのに順番待ちをしているような状況があったそうです。そして、職場

体験が始まる前からこのカードを見て、「この事業所に行きたい！」と言う、積極的な反応が見られた生徒さんがいたそうです。直接接することがない業種についても、様子を見ること、知ることが出来て、仕事の内容について深く考えるきっかけとなったとのことです。

また、「職業講話の子ども達の様子はいかがでしたか？」と先生に問合せしましたところ、「興味や関心を持って話を聞いていました。とても反応が良かった」、「話の内容が良く、話し方も上手だったので、子どもたちは引き込まれていたと思います。」というコメントがありました。また、「講師の方の事業所に行く生徒たちは、ものすごくやる気になっていました」ということや、職業講話は26日の金曜日に行われたのですが、本日、月曜日の授業で、「講話で話された内容に影響された発言が出て来る場面が見られた」という話がありました。先程話にもあったのですが、「女子の中にも技術職について興味を持ち、やってみたいという生徒がたくさん見られました。その子たちは希望を製造業にすれが良かった」とも話していたそうです。そして、「仕事の難しさや地道に努力する姿勢に感銘を受ける生徒が見られました」ということと、「情熱がすごい」と目を輝かせる生徒がいたということ、先生からも、「講話の内容や構成が中学生用に練られていて、とてもわかりやすく、なおかつ、具体的で説得力のあるお話しをしていただきありがとうございました。」ということでした。以上です。

#### 【白川委員】

以上でAグループの報告を終わります。

#### <Cグループ>

#### 【志村議長】

それではCグループから発表させていただきます。Cグループのチャレンジの目的ですが、「ふるさと大月の夢を描き、夢を語る子供や大人の集う場所を学童クラブに求め、地域の方々の参画を得て、未来を担う子供たちの放課後の時間を豊かに編んでいく。」ということです。これは一応仮の目的です。これからの会議の中で、もしかしたらゴールとして、言葉の表現が変化する可能性があります。とりあえずの仮の目的・ゴールです。

事業概要について説明致します。(1)各学童クラブの求めに応じて、さまざまな支援を行う。(2)各種分野の専門知識のある人材を発掘して、学童クラブと地域住民の交流を促進する。(3)活動事例として3つ挙げてあります。

私達のグループは、まず、鳥沢小学校にある学童クラブ「たんぼぼ」から始めました。当時、夏の時期で暑かったことから、外での活動は子ども達が大変かなと思い、「読み聞かせ」ということで教室の中で行う活動を行いました。子ども達は全部で14人でした。その中で、地域の方からの参画を得るということにつきましては、鳥沢と梁川の方達の参画を得て、メンバーも含めて6人で「読み聞かせ」をやらせて頂きました。読み聞かせの内容について、第一話は「やってくる」、第二話は「子ぎつねこんと子たぬきぼん」を行いました。それについての児童の感想が寄せられましたので述べさせていただきます。「歌とか子ぎ

つねこんが可愛かった。」「子ぎつねこんと子たぬきぼんが、最後に親と一緒に橋をかけて、仲よくなれて良かった。」「橋を架けて、最後に仲良くなれたのがいいなと思った。」とのことでした。それから主催者側の感想としては、「みんなが静かに聞いてくれて、練習した甲斐がありました。」ということでした。なお、今のところについては様子を写真に撮っています。この中で大事なことは、子ども達の見つきです。真剣に聞こうとする、あるいは楽しもうとする、先程食いつきという言葉がありましたが、私達も読み聞かせをしながら食いついてきたなという実感がありました。その後、子ども達の方で絵日記という形で書いてくれました。ほとんどの子どもが書いてくれましたが、スペースの関係で2つを抜粋させて頂きました。後で読んで頂ければ有難いかなと思っております。これが一つ目の事業です。

次に、猿橋小学校にある学童クラブ「ひまわりⅡ」の自然散策の取り組みについて報告します。猿橋には学童クラブが2つ、「ひまわりⅠ」と「ひまわりⅡ」がありまして、「ひまわりⅡ」の方は3年生から5年生までを対象とした学童クラブです。学校近くの伊良原地区の畑のあぜ道を歩きながら、妙楽寺というお寺へ行ったという行程です。参加してくれた地域の方では、地区の自治会長さん、防災会の会長さん等々、全部で8名くらいはいました。協力して頂いた方もいらっしゃいまして、妙楽寺さん、地域でトマトを栽培している方、柿をもがさせてくれた方、また、メンバーの委員が聴診器と金づちを持って来てくれました。

道中では、野草や果樹類、野菜、どんぐり、クルミ、くり、鳥類など、参加者は地域の自然を感じた時間であった。特に、野菜畑では、ミニトマトの収穫体験をさせていただき、児童の表情から、楽しさが伺えた。また、児童らは、樹木に聴診器をあてて木の音を感じ取ったり、くるみを割って食べたり、柿をもいで食べたり、トマトを食べたりと、非日常の場面であったり、収穫の秋であるからこそその体験をしました。くるみについては、金づちを持っていきましたので、くるみを割って、それをほじって食べるということが特に楽しかったようでした。

妙楽寺では座禅を体験したり、けんちん汁を振る舞って頂きました。座禅では、座禅の組み方、礼儀作法等を説明しながら般若心経を一生懸命読みました。最後に集合写真を撮る際には、手の組み方も教わりまして、手を組んでの写真を撮りました。

一番最後のおわりの会では、地区の自治会長さんが講評をしてくださいました。児童の感想では、「座禅が難しかった」「楽しかった」「歩き疲れた」「つまらない」などの率直な意見がありました。妙楽寺さんからのコメントでは、しっかり座禅を組めており、見事でしたという話を頂きました。様々な体験をして帰ってくる事が出来ました。

今後の予定事業としましては、11月13日に猿橋小学校の学童クラブ「ひまわりⅠ」の取り組みを紹介します。「ひまわりⅠ」は、小学校1年生から3年生までが対象となっています。タイトルは「ひまわり村」としました。場所は猿橋小学校の体育館と校庭を使います。子ども達は40名います。また、協力して下さる方から、大きなテントを2つ提供

して頂けることとなりました。

ひまわり村の内容ですが、3つの柱があります。「ひまわりおにぎり村」、「ひまわりトンネル村」、「ひまわりテント村」です。「ひまわりおにぎり村」については、地域の方からお米が炊き上がるまでの過程を学び、炊き上がってからは、地域の方の指導のもと、おにぎりを握る実際に工程を体験してもらいます。このお米は、メンバーの委員から提供を頂くこととなりました。「ひまわりトンネル村」については、学童クラブでは、普段からダンボールを使った遊びが好きなようです。そこで、大小様々な大きさの段ボールを用意し、体育館にダンボールで長いトンネルを作ります。長さについては、可能な限りギネスに挑戦してみたいと考えています。「ひまわりテント村」については、校庭に大きなテントを張って、非日常の世界を児童に体験してもらいます。また、災害時に想定されるテントでもあることから、ラジオ等を用意し、非日常の対応について児童に意識づけを図る。おにぎり村で作ったおにぎりを、テント村で食べてもらうということを計画しています。

今後のスケジュールについては、実施していない学童クラブが3つありますが、時間的に難しいだろうと考えております。ただ、鳥沢小学校の学童クラブ「たんぼぼ」では、当初、バードウォッチングを行おうということで話があり、季節的な部分で、夏は実施を見送り「読み聞かせ」を行った経緯があります。今後、冬にバードウォッチングを行うかどうかを関係者と調整しながら、実施の可否を判断していきたいと考えております。大雑把に説明させて頂きました。以上で報告を終わります。

## <Dグループ>

### 【佐藤副議長】

Dグループのチャレンジ事業ですが、「“夢を叶える大月仕事人”情報発信事業」とタイトルが付いています。事業自体は非常に分かり易い事業で、大月の広報誌を使って、夢を叶える大月仕事人を上手にアピールしていこうという事業です。

チャレンジ事業の目的としましては3つ設定しています。1つ目は、ふるさと教育の理念にある「夢を語る大人」が少ない、いないという話がありましたが、実はいるということで、「夢を叶える大月仕事人」を先導的に5名を発掘する。2つ目として、これら大月仕事人に大月市広報を通じて夢を語ってもらい、当初は中学生を想定していましたが、実際は短大生と都留高校の生徒さんになりましたが、生徒たちを触発し未来を展望する想像性とモチベーションを養ってもらう。3つ目として、大月の大人たちに対しても、次年度以降の「夢を叶える大月仕事人」になるべく啓発し、世代間の精神的な交流を深める。

まず広報9月号で「夢を叶える大月仕事人」の予告掲載をしました。そして、早速10月号から、掲載を始めました。第1回目の大月仕事人は、丁度、桃太郎を日本遺産にしようという動きがあったので、大月桃太郎会の山地さんをお願いをしました。若者取材班は大月短大生です。

2回目は、広報11月号に掲載予定で未発表ですが、11月号はみらい協議会のメンバーである藤井真弓さんに夢を語って頂きました。若者取材班は、都留高校の2人の女子学生に担ってもらいました。取材場所は都留高校です。

そして、12月号まで取材が終わっています。原稿は作成途中です。大月仕事人は、大月の山々を知り尽くす山の達人、藤本政幸さんをお願いしました。数多くある大月市の山の登山ルートは、この人のおかげで出来たと言っても過言ではありません。大月短大生が藤本さん取材しました。12月号に掲載予定であります。これも大月短大生がインタビューしました。

今後のスケジュールですが、広報1月号、2月号は調整中となっています。今まで若者取材班は女性が行っていましたが、中々男子を引っ張り出すのは大変でしたが、1月号の広報では若者取材班に短大の男子学生を考えています。

まだ事業を実施中ではありますが、これをやってどうなの？というところを、検証しなければいけないと考えております。私の方からの報告は以上です。

## ■チャレンジ事業に関わる確認・検討項目について

### 【佐藤副議長】

この後の話ですが、チャレンジ事業の実施は11月を目途にということで、1ヶ月あります。このチャレンジ事業の実施としてのまとめの段階に入ってくると思います。その上でグループとして話し合っ、やって欲しいことがあります。

大項目の1つ目は、チャレンジ事業の中間評価と仕上げの点検ということで、グループの中で確認し合っ頂きたいです。まず、(1)では、当初計画における目的の確認ということで、当初、目的・ゴールを設定しました。このゴールの達成度合いのものを確認して頂きたいです。Cグループは、目的が固まっていないという話もありました。曖昧であったものを、そもそもこの目的が何であったかを明確にして頂ければと思います。目的に修正項目があれば修正して頂きたいと思います。

次に(2)では、大月みらい協議会では「ふるさと教育」の理念を示しました。この理念との整合性について、確認してほしいと思います。チャレンジ事業が、昨年度示した理念のどのような役割になるか点検をお願いします。

理念は2つありました。一つは、子どもの前で「夢を語る大人」をつくること、もう一つは子どもが抱く「夢を応援する大月コミュニティ」をつくることでした。これが、私達が掲げたふるさと教育ですので、ここの整合性、関係性を議論して頂きたいと思います。

そして、残り1ヶ月となり、11月で全て終わらせなければいけないということではありませんが、残りの限られた期限の中で、何をやらなければいけないのかという作業項目を確認して頂きたいと思います。この3つをランダムで結構ですので、グループの中で確認をして頂きたいと思います。



大項目2つ目として、今年度のチャレンジ事業のスケジュールを確認したいと思います。今は10月の終わりです。この後11月にチャレンジ事業のまとめに入って頂こうと思っております。12月と1月は、結果が出たチャレンジ事業に対して、評価をそれぞれの班の中でして頂きたいと思っております。そしてその評価に基づいて、2月に「成果報告会」をこれから企画していきたくて考えております。この成果報告会は、出来ればみらい協議会だけでなく、市民の方とか関係者の方を呼んで、こんなことをやりました、こんなことが、ふるさと教育として確認出来ましたということを報告して、それも含めて市長に報告するという段取りを考えております。これも想定をしてグループ会議を進めて頂ければと思います。

●その後、各グループで会議が行われました。

(グループ会議終了後)

【佐藤副議長】

それでは各グループで、どんな話し合いになったのか簡単に結構ですので発表をお願いします。

【白川委員】 <Aグループ>

Aグループでは、まずゴールの再確認をしまして、子ども達に「職業講話」や「みらい夢カード」を通して興味を持って頂いたということで、目標通りに向かっているかなと確認しました。事業所側でもそれをやることによって、事業所をどうやってPRするのかとか、また、講話を聞いた子ども達に対して勇気もらったとか、力不足を感じたというコメントも頂き、そういう意味では、大人も刺激を頂いたのかなと思われました。方向性は間違っていないと思われました。

2つ目の理念との関係性について、子どもの前で夢を語る大人という部分では、情熱を感じたような子ども達がいたということは、大人のそういう姿に情熱を感じたのではないかなという意見もありました。ただ、夢を応援する大月のコミュニティというのは、一見コミュニティがないという風に捉えられますが、ただ、考え方では、事業所の中で、大人の中で「夢を盛り上げる」というような催しが出来るということは、一つには夢を応援するということに結びついているのではないかなと思われました。

今後の事業計画については、11月7日と8日に職場体験が行われますので、その成果を各事業所が出して、12月くらいに集まって、2月の成果発表までのスケジュールを確認しました。特に修正をする予定はなく、進めていきたいと思っております。以上です。

【志村議長】 <Cグループ>

Cグループでは、11月13日に行う取組みの細かい打合せを重点に行いました。それに終始しました。以上です。

【佐藤副議長】 <Dグループ>

既に広報誌で掲載がなされていますが、残りの仕事人の掲載を進めていきます。目的については3つ掲げていますが、1番（ふるさと教育の理念にある「夢を語る大人」として、上記要件にある「夢を叶える大月仕事人」を先導的に5名発掘する。）と、3番（大月の大人たちに対しても、次年度以降の「夢を叶える大月仕事人」になるべく啓発し、世代間の精神的な交流を深める。）については、夢を語る大人を見つけていきたいと思いますという意味で、方向性はずれていないと確認しました。ただ、2番（大月仕事人に大月市広報を通じて夢を語ってもらい、生徒たちを触発し未来を展望する想像性とモチベーションを養ってもらおう。）の生徒達に夢を与えようという部分については至っていません。

ふるさと教育の理念についても、夢を語る大人をつくるということでは方向性は間違っていないのでこのまま進めていきたいと思いますということとなりました。ただ、これをどうやって子ども達に伝えるかということについて、まだまだ工夫が必要だねという話になり、いくつかアイデアが出たという話でした。

■成果発表会における報告書の構成案について

【佐藤副議長】

各グループでは11月までチャレンジ事業を実施して頂き、翌年の2月に成果報告会を開催していきたいと思いますが、それに向けて報告書を作成して頂こうと考えております。これを持って発表に繋げていく予定です。以下の項目で、発表して頂きたいと考えております。

<報告書内容・発表項目>

- ① 事業概要（サマリー）
- ② 目的・ねらい
- ③ 実施メンバー・関係者
- ④ 実行内容
- ⑤ 効果（ふるさと教育への貢献）と実証評価
- ⑥ 今後の課題

これは、次回みらい協議会のときに統一フォーマットを準備しますので、それに即して作って頂きたいと思います。報告の資料を作る、成果報告会をやるというところまで、チャレンジ事業を引っ張って頂きたいと思います。

■来年度（2019年度以降）のみらい協議会の方向性について（佐藤副議長私案）

【佐藤副議長】

最後に、来年度どうするのか？ということ、そろそろ議論していかなければならないと思っています。この部分も11月、12月、1月の議論のテーマになっていくのかなと思います。チャレンジ事業をやった上でどうするのか？ということです。私達の任期は2年ですが、私達の次の任期も踏まえて、皆さんそれぞれで考えて頂きたいと思います。

以下のシナリオは私案です。これを今日議論することでもなく、こうするよというものではありません。4つの方向性が考えられるのかなと思います。

- 1) シナリオ①：今年度事業を継承し「チャレンジ事業2019」のみらい協議会で実施する。
  - ・今年度では実証が十分ではなかったということで来年度も継続する。
- 2) シナリオ②：ふるさと教育を実現する「組織づくり」を協議する。
  - ・事業を持続可能にするためには、行政のみでは限界（?）。
  - ・したがって、官民連携の組織（NPOや地域運営組織）を発足させることを前提に協議する。
- 3) シナリオ③：別の事業、別のテーマにてみらい協議会で実施する。
  - ・「ふるさと教育」とは別のテーマを設定し、新たな活動や事業をゼロから協議していく。
- 4) シナリオ④：協議会を終息させる。
  - ・「地方創生」の検証作業があるので、2019年度の協議会は必要最小限で継続する。
  - ・これをもって解散か別の委員会への継承の方向性で動く。

(3) 大月市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況報告書及び内部評価書について

- 事務局から、総合戦略の進捗状況について、みらい協議会に検証していただき、ご意見を頂きたい旨の説明がありました。
- 意見がある場合は「大月みらい協議会検証意見シート」に記入し、次回会議の時に提出して頂くこととなりました。なお、特に意見がなければ提出は不要です。詳細は別途メールでお知らせすることとなりました。
- 助成金制度の見直しについて説明があり、今後の助成金制度について報告がありました。

(4) その他

- 次回会議は、11月下旬～12月上旬を予定し、チャレンジ事業の事業結果報告を行う予定です。